

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 011	提案機関名 畜産課
要望問題名 乳牛に対する未利用資源の活用試験	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 力強いかながわの畜産業の展開を図っていくため、ブランド力の強化や新たな販売戦略を構築していく必要がある。 牛乳については、県内において一部のメーカーが県内産牛乳を使用した独自ブランドに取り組んでいる例がある。 今後さらに茶業センターから出る足柄茶の茶がらや、他の県内産農産物の残渣等を有効活用して飼料に一定割合混合させることで、製品に特徴付けをすることが期待できることから、乳牛への給与試験を実施し、牛の嗜好性や牛乳の機能性について検討を行う。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター畜産技術所	担当部所	企画研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) コーヒー豆粕の給与が乳牛の健康と生産性に及ぼす影響の検討(平成25年度～)		
対応の内容等	茶がら(茶系飲料粕)の飼料利用については、嗜好性が低いこと、粗蛋白質含量が高いこと、サイレージ化により保存性が高まることが報告されており、一部の地域のTMRセンターでは発酵TMRの原料として利用されていますが、嗜好性を考慮して配合割合を制限しているようです。また、生乳中への成分の移行についてはほとんど報告されていません。 他の農産物残さとしては、コーヒー豆粕を乳牛に給与した際の、乳牛の健全性や生乳の品質の向上への効果について平成25年度から試験を実施しており、要望のありました牛への嗜好性と牛への機能性について、この課題の中で検討します。牛乳の機能性については、現在の試験結果を基に試験の実施について検討します。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			

